

2024年度 建設部会 例会・講演会

2024年6月22日

日本技術士会中国本部 建設部会

次 第

第1部 建設部会例会 (13:00～13:30)

1. 開会挨拶
2. 2023年度 活動報告 
3. 2024年度 活動計画 
4. その他
〔技術士CPD活動実績の管理及び活用制度〕 

第2部 講演会 (13:40～17:00)

「社会課題に挑戦する地域の技術者」



2. 建設部会 2023年度 活動報告

- 2.1 建設部会の体制、活動目的とテーマ 
- 2.2 例会・講演会 (2023. 6.17) 
- 2.3 第2回講演会 (2023.12. 2) 
- 2.4 現場見学会 (2023.10.19) 
- 2.5 その他
 - (1) 統括本部建設部会との意見交換 

2.1 建設部会の体制、活動目的とテーマ

2024年度 建設部会の体制

役 職	氏 名
部 会 長	浅間 康史
副部長	溝山 勇
	岩田 直樹
	福光 年宏
幹 事	24名
計	28名

	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	計
会員数	44	48	68	213	57	430
登録者数	188	293	606	1,313	241	2,641
入会率(%)	23	16	11	16	24	16

2.1 建設部会の体制、活動目的とテーマ



【活動目的】

建設部会は、安全で元気な地域づくりと技術士の活躍の場を拡げることがを目的として活動する。

【活動テーマ】

- ① 技術士の地位向上
- ② 土木技術の伝承と教育
- ③ 国土強靱化と防災
- ④ インフラ設備等の品質確保・向上方策
- ⑤ 地域貢献・地域創生

上記の活動目的・活動テーマに沿って、部会内に幹事会(月例開催)を置き、事業計画を立案し、実施しています。

2.2 例会・講演会

日 時:2023年 6月17日(土) 13:30~17:30 方 法:ハイブリッド方式

【第1部】 例会

【参加者】 例会 : 93名 会場:42名、Web:51名

【概 要】 ・2022年度 事業結果(報告) ・2023年度 事業計画(提案)

【第2部】 講演会

【参加者】 講演会: 125名 5会場:42名、Web:83名

(会場:広島・鳥取・倉吉・島根・山口)

【主 旨】『DX推進の取組みと今後の展望』

AI・IOT活用によるDX推進は、2025年までにDX実現の課題を克服できないと大きな経済損失が生じる可能性があるというITシステム「2025年の崖」の克服や生産性向上等を目的として、国・民間企業等で様々な取組みが行われている。

このような背景のもと、幅広い分野でのDX推進に向けた取組み事例、今後の展望や施策について紹介いただくことで、建設分野でのDXの取組みを加速化するための参考にしていただけたらと考えている。

また、CPD制度見直し等を踏まえ、会員への発表機会提供(2テーマ)により技術の相互研鑽とする機会も設けた。

2.2 例会・講演会

【講演内容】

講演1 『Society5.0時代における衛星データの利活用』
長井正彦氏(山口大学 大学院創成科学研究科 工学部循環環境
工学科 教授 応用衛星リモートセンシング研究センター長)



長井先生

講演2 『製造業のDX推進の現状と取組み事例』
池本裕二氏(日本技術士会中国本部 機械/船舶・海洋/航空・
宇宙部会 副部会長)



池本氏

講演3 『令和5年度BIM/CIM原則適用について』
豊田清光氏(国土交通省中国地方整備局企画部技術管理課)



豊田氏

会員発表1 『直轄国道地すべり災害における
建設DXを活用した効率的・効果的な
災害復旧対応事例』
糸原 浩氏(基礎地盤コンサルタンツ株式会社)



糸原氏

会員発表2 『デジタルデータで建設現場が変わる
見える化、明日を魅せる化～』
高橋広幸氏(カナツ技研工業株式会社)



高橋氏

2.2 例会・講演会



【講演会の評価等】

○アンケートの8割を超える方が満足との回答
衛星活用、製造業の状況など異分野の話題と、BIM/CIMの導入に向けた取組
みといった身近な話題など多様な情報を得ることができたとのコメント多数

○会員発表も具体的なDX活用事例であったため、分かりやすく、興味をもって
聞けたと概ね好評

△講演数が多いためか「時間にゆとりがなかった」、「質問時間が短かった」など
のコメント受領、詰め込みすぎた感あり

【課題】

△WEB聴講者の一部からは「聞き取りづらい」、
「音声が一部とぎれる」といったコメントもあり

⇒集音マイクの変更、機器レイアウトの標準化等



広島会場での講演会の様子

2.3 第2回 講演会

日 時 2023年12月2日(土) 13:30～17:00

方 法 ハイブリッド方式

【主旨】

『人口減少下における中国圏内の持続的成長・地域活性化のあり方』

人口減少化における地域の持続的成長や地域活性化のあり方について、学識経験者からの基調講演に加え、中国地域の都市圏や中山間地域での具体的な取り組みを紹介することで、建設部門技術士の地域活性化への参画の場拡大に資することを目的とした

【参加者】 79名

会場38名(広島31 鳥取2 岡山2 島根3)

Web 41名

2.3 第2回 講演会

【講演内容】

講演1 『中国圏の将来の展望』

～広域地方計画改訂の議論を受けて～

渡辺 一成 氏(公立大学法人福山市立大学 大学院
都市経営学研究科 研究科長 都市経営学部 学部長 教授)



渡辺氏

講演2 『中国地方における新たな循環圏形成のデザインと手法』

藤山 浩 氏

(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長)



藤山氏

講演3 『地方企業の公民連携』

～ローカルの中小企業だからこそできるまちづくり～

島田 宗輔 氏(福山電業株式会社 代表取締役社長)



島田氏



広島会場での講演会の様子

2.3 第2回 講演会



【評価等】

- ・アンケート回答率は約8割、9割を超える方が満足回答。講演内容は興味深く、どれも面白く、わかりやすかったとのコメントが多かった。

この講演を通じて自分の町の事例で考えてみたい、改めて問題の深刻さを感じることができた、これからの様々な機会に活かしたいという内容も多数あり。

【課題】

- ・会員のCPD受講証入手方法(日本技術士会HPホームページからダウンロード)について理解されていない方があり、問合せもあり

⇒ 講演会前後、および日本技術士会HPにCPD受講証がアップロードされた後に、会員参加者宛にダウンロード方法も含めて再周知
事務局業務の省力化・円滑化のためには、同様なフォローを継続

2.4 現場見学会

日 時 2023年 10月19日(木) 14:00～16:00

【見学先】 中国インフラDXセンター
(中国地方整備局中国技術事務所 構内)

【参加者】 20名

【目的】

国土交通省は、建設現場の生産性向上と働き方改革を推進していくためインフラ分野のDXに取り組んでおり、新たに開設された「中国インフラDXセンター」は人材育成を目的にDXに関する技術等を体験できる施設の見学を行い最新の技術動向を習得する

【見学内容】

- ①中国インフラDXセンターの概要
- ②山陰西部国道事務所発注工事現場
三か所の遠隔見学
- ③DXセンターの体験見学 (5名一組で施設体験)

遠隔現場見学



LP計測実演見学



2.5 現場見学会



【参加者の反応】アンケートより

- ・DXの波がどんどん押し寄せてきており、取り残されないように日々研鑽が必要と感じた
- ・ICT建設機械の衛星取得範囲と稼働率等、遠隔臨場ほかVRやARを体験したことがなかったので、理解が深まった
- ・通信環境の悪い現場で、ICTを施工する場合、固定局の設置や衛星回線を使用する必要があることを理解

【今後の運営について】

- ・建設業界の繁忙期になる前の見学会であり、非常に満足する見学会でした
- ・遠隔臨場が可能であれば技術士会事務所での開催も検討してください



2.6 その他



(1) 統括本部との意見交換(参加者:浅間部会長)

日時 : 2023年11月17日(金)13時30分~16時

主催 : 日本技術士会統括本部建設部会

会場 : 名古屋国際会議場 (Web配信)

内容 : 建設部会幹事会と各地域本部との

今後の連携等のあり方(意見交換)

- ・会長挨拶、運営方針、活動報告
- ・地域本部活動報告及び質疑応答・意見交換

<北海道、東北、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州>

【中国本部建設部会からの主な要望事項】

○建設部会講演会の企画・Web配信

- ・要望①技術士へのCPD機会の創出・会員勧誘のため、会員以外へのWeb配信拡大を要望(受講情報の目的外の利用禁止は申込時に誓約)。
- ・要望②参加費の低廉化(年会費に加えた参加費に負担感あり)
- ・要望③地方会場中継時の参加費は、地方本部にて独自設定

○新CPDシステムの非会員への対象拡大

3. 建設部会 2024年度 活動計画



3.1 2024年度 事業計画

【講演会】

- ・中国本部主催Web講演会の企画・開催(6月、11月目途)
- ・中国地区・全国で活躍する技術者、学識者、経済人、文化人等から近年の社会情勢に関する話題提供を目的に講演会を開催する。

【現地見学会】

- ・10月頃開催を目途に計画中。

【Web中継講演会(統括本部講演会)】

- ・相応の会員参加が見込める講演を対象に開催

3.2 その他の取組み

- 統括本部・地域本部、県支部等との連携
 - ・Webオンライン機能等を活用し連携を図る。
- 既往施策のレビュー
 - ・幹事会・部会活動活性化，幹事の継続的輩出

以上

4. その他〔技術士CPD活動実績の管理及び活用制度〕

技術士CPD活動実績の管理及び活用制度の概要(2022年4月26日開始)

1. 技術士CPD活動実績簿への記載申請
技術士会CPD登録システム(Pe-CPDシステム)への登録により個々の「技術士CPD活動実績簿」が作成され、過去5年度まで申請可
2. 登録事項変更届書の提出(法的手続き)
「登録事項変更届書」により過去5年度までのCPD活動実績時間が記載可
3. 技術士CPD活動実績名簿の公表(HP掲載)
 - 基準CPD時間達成者：20CPD以上
 - 推奨CPD時間達成者：50CPD以上
4. 「技術士(CPD認定)」の認定及び公表
(HP掲載、名刺等への標記可)
 - 認定条件(2025.3まで): 過去2年間の各年50CPD以上
 - 認定条件：①合計250CPD ②技術者倫理5CPD (申請前5年間の実績) ③毎年度20CPD以上
5. 技術士CPD活動実績証明書発行(申請要)

